

(5) くり

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
冬 期 間 (休眠期)	クリオオアブラムシ、クスサン、マイマイガ	・クリオオアブラムシの卵はすりつぶし、クスサン、マイマイガの卵塊は除去する。	
	実炭疽病		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発生の少ない品種を栽培する。(丹沢、伊吹、筑波などにでやすい。)</li> <li>○ 縮間伐、整枝、剪定により日当たりを良くし、枝葉の密生を避け、剪定枝は4月中旬までに処分する。</li> </ul>
	胴枯病	・トップジンMペースト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 枯死樹・枝・葉、剪定枝は伝染源となるので、園内に放置しない。枯死枝・病患部はその周辺の健全部まで広く削り取り、保護剤を塗布する。生育期でも発病を認めたら速やかに実施する。</li> <li>○ 縮間伐、整枝、剪定を行い、園内の通風を良くする。</li> <li>○ 樹勢が低下すると発生が増大するので、土作りや施肥を適正に行う。</li> <li>○ 草生栽培とし、下草管理を励行する。</li> </ul>
萌芽～ 発芽期	クリタマバチ	・アグロスリン水和剤 又はトラサイドA乳剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発芽直前に散布する。</li> <li>○ 耐虫性品種(石鎚、有磨、銀寄、出雲、岸根)を栽培する。</li> <li>○ ゴールを除去する。</li> <li>○ 剪定時に樹冠内の弱小枝を除去するとともに、低樹高栽培をして樹勢を強く保つ。</li> </ul>
収穫後～ 翌年の収穫前日	カミキリムシ類	・ロビンフッド	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 樹幹・樹枝の加害部の樹皮剥ぎを行い、食入部を確認し、穿入孔にノズルを差し込み薬剤を噴射する。</li> </ul>
4月上旬頃 ～8月		・サッチューコートSセット 又はトラサイドA乳剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 寒害や日焼けを起こさないようにし、樹勢を保つ。</li> <li>○ カミキリムシ類の被害は樹勢衰弱の原因となり、特に台風時には枝幹部の折損を助長するので十分な対策を講ずる。</li> <li>○ シロスジカミキリは、樹幹の比較的低い部分に連続的に産卵する傾向がある。</li> <li>○ トラサイドA乳剤薬剤防除は、越冬成虫食入期(3月～5月)、または産卵盛期・ふ化最盛期(6月～8月)に薬剤を樹幹の地際部から約150cmの高さまで樹幹部に十分散布する。</li> <li>○ サッチューコートSセットは産卵期～幼虫発生期(6月～7月中旬)に樹幹部及び主枝に散布又は塗布する。</li> <li>○ 産卵前に樹冠下の草刈りをして、通風採光をよくする。</li> <li>○ 捕殺は、5～6月で1～2週間毎、7月上旬～8月上旬で5～7日毎に園内を見回り、産卵痕の発見に努め、樹皮下の卵を槌で叩きつぶす。シロスジカミキリの場合、産卵痕隆起部の上部を叩くのがよい。幼虫の食入箇所を発見したら、木くずを取り除き、針金等で刺殺または捕殺する。</li> <li>○ 産卵前(5月中旬)に米袋等を地上1～2mの主幹や主枝に巻付けて産卵を防ぐ。</li> </ul>

時期	対象病害虫	防除法	注意事項
5月上旬	クスサン、マイマイガ、ドクガ類 カクモンハマキ	・幼虫が分散する前(集団で食害中)に集めて殺す。	
	疫病		○ 縮間伐、整枝、剪定を行い、園内の通風を良くする。 ○ 草生栽培とする。 ○ 被害枝は除去する。 ○ 園の排水を良くする。
5月中旬 ～ 6月中旬	クスサン	・エルサン乳剤	○ 新葉の食害初期に散布する。
5月下旬 ～ 7月上旬	キクイムシ類	・ガットサイドS 又はサッチューコートSセット	○ 地際から約 1.5m までの樹幹に塗布又は散布する。(ガットサイドS) ○ 樹幹部及び主枝に散布又は塗布する。(サッチューコートSセット)
6月中旬 ～ 7月上旬	コウモリガ	・ガットサイドS 又はサッチューコートSセット	○ 地際から 1.5～2m までの主幹及び主枝に塗布又は散布する。(ガットサイドS) ○ 樹幹部及び主枝に散布又は塗布する。(サッチューコートSセット) ○ 幼虫の中間寄主である周辺の雑草を繁茂させないように、特に株元の周辺は除草する。 ○ 食入孔に針金を通し幼虫を刺し殺す。
6月中旬 ～ 7下旬	ネスジキノカワガ	・トクチオン乳剤	○ イガの大きさが 10 円硬貨大の時期に散布すると効果が高い。
	クリイガアブラムシ	・エルサン乳剤 又はマブリック水和剤 20	○ 園内の日照通風を良くし、枝の充実を図る。
6月下旬 ～ 7月上旬	クリタマバチ	・アグロスリン水和剤 又はアディオン乳剤 又はマブリック水和剤 20	○ 成虫の発生時期(雄花満開時期)に散布する。
7月下旬 ～ 8月中旬	実炭疽病	・ベルコートフロアブル 又はベンレート水和剤※	○ 窒素質肥料の過多を避ける。 ※は耐性菌を生じやすいので連用しない。
8月上旬 ～ 9月中旬	モモノゴマダラノメイガ	・エルサン乳剤 又はトクチオン乳剤	○ 病害虫被害果は、園内に放置せず処分する。 ○ 秋にムシロを主幹・主枝の基部に巻き、越冬幼虫を集めて2月初旬に取り外し処分する。 ○ 幼虫ふ化期に散布する。
9月下旬 ～ 10月中旬	クリシギゾウムシ	・アグロスリン水和剤 又はアディオン乳剤 又はマブリック水和剤 20	○ 裂果の時期までに薬剤を散布する。 ○ 被害果は処分する。

農薬登録情報（農薬名順）

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報（RACコード順）

- ・ [殺菌剤](#)
- ・ [殺虫剤](#)
- ・ [展着剤及びフェロモン剤](#)